

Peace For Tomorrow
広げよう 平和の心

**2019.4.1 -
2020.3.31**

ANNUAL REPORT

2019年度 活動レポート



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

ごあいさつ

日頃より日本ユネスコ協会連盟の活動に温かいご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。皆さまのお力添えにより実施しました2019年度の公益活動についてご報告させていただきます。心からの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

国内においては、子どもたちが災害等により経済的な理由から進学をあきらめることのないよう、継続して奨学金の支給を行い、また教育現場との連携や海外へのスタディツアーナなどを通して、全国の子どもたちにさまざまな学びの機会を提供しました。

海外においては、途上国の教育支援「ユネスコ世界寺子屋運動」が30周年となり、この間に44カ国1地域、131万人を超える人びとが寺子屋で学びました。貧困の連鎖を断ち切るべく、公教育すら享受できずにいる子どもと大人を対象に、識字などの基礎教育や生きていく上で必要となる衛生教育、職業訓練プログラムなどを継続実施しています。

2019年度末頃から世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症は、私たちに新たな課題を突きつけました。経験のない困難な状況の中で教育の灯を絶やすことのないよう、世界寺子屋運動を実施しているアジア4カ国において、新型コロナウイルス対策支援プログラムを開始しました。

国連が掲げる「持続可能な開発目標」(SDGs)の目標達成年の2030年まであと10年となりました。「誰一人取り残さない」持続可能な社会づくりに向けて活動を続けていくためにも、皆さまのさらなるお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
会長 佐藤美樹



もくじ	02 UNESCO憲章と日本ユネスコ協会連盟
03 日本ユネスコ協会連盟が目指すこと	
05 2019年度 私たちが取り組んだこと	
07 東日本大震災 子ども支援 ユネスコ協会就学支援奨学金 MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金	
13 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム	
15 SDGs達成に向けた次世代育成	
17 未来遺産運動	

21 世界遺産活動
25 世界寺子屋運動
31 三菱アジア子ども絵日記フェスタ
32 維持会員／賛助団体会員
33 民間ユネスコ運動の取り組み
35 構成団体会員(全国ユネスコ協会・クラブ等)
36 企業・団体との連携／サポートーの声
37 会計報告
38 ユネスコ活動への参加・協力方法

UNESCO憲章と日本ユネスコ協会連盟

戦後間もない1947年、UNESCO(国際連合教育科学文化機関)憲章(下記)に共鳴した市民による日本のUNESCO加盟を目指す草の根の活動が、ユネスコ協会のはじまりです。官民一体となった加盟運動が功を奏し、日本はサンフランシスコ講和条約発効前年の1951年にUNESCO加盟を果たし、国際社会への復帰の第一歩を踏み出しました。私たちは今日もUNESCO憲章の理念に基づいて、国内外で活動を行っています。

UNESCO憲章前文より(抜粋)

戦争は人の心の中で生まれるものであるから、
人の心の中に平和のとりでを築かなければならぬ。

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信をおこした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となつた。
文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、且つすべての国民が相互の援助及び相互の关心の精神をもって果さなければならない神聖な義務である。
政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならぬ。

一人ひとりが平和の担い手

UNESCOは、政府間機関ながら「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない」としています。UNESCOは他の国際機関ではない市民レベルの活動を生み出し、国連、政府、そして民間が一体となり活動し、平和な世界を実現することを目指しています。



独立採算で運営している公益社団法人です

- 日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO、日本政府からは独立した公益法人格を持つNGO組織です。
- 個人や団体の皆さまからいただく寄付を主な財源としています。
- 当連盟への寄付には税制控除が受けられます。

UNESCOのあゆみ

(青字は民間ユネスコ運動の動きです)

1945年11月16日	UNESCO憲章採択
1946年11月4日	UNESCO憲章発効
1947年7月19日	仙台ユネスコ協力会(当時)発足
1947年11月27日	第1回ユネスコ運動 全国大会開催
1948年5月1日	日本ユネスコ協力会連盟(当時) 結成
1951年7月2日	日本のUNESCO加盟 (日本が戦後初めて加盟した国連機関)
1951年8月14日	日本ユネスコ協会連盟設立
1956年12月18日	日本の国際連合加盟

歴代会長

藤山 愛一郎	/1951-1957
佐藤 喜一郎	/1957-1967
岡田 完二郎	/1967-1970
數納 清	/1970-1989
藤森 鐵雄	/1989-1992
高島 隆平	/1992-1994
山本 卓眞	/1994-2000
児島 仁	/2000-2006
松田 昌士	/2006-2017
大橋 洋治	/2017-2019
佐藤 美樹	/2019-

日本ユネスコ協会連盟が目指すこと

日本ユネスコ協会連盟では、平和で公正な社会を育むために、UNESCO憲章の理念に基づき、ビジョン(指針と展望)とミッション(使命と責務)を定めています。国内外で志を同じくする人びとと連携し、ともに学び、行動する民間ユネスコ運動によって、平和な世界の実現を目指します。

ビジョン(指針と展望)

Peace for Tomorrow 広げよう平和の心

ミッション(使命と責務)

Mission 1「平和な世界の構築」

Mission 2「持続可能な社会の推進」

ユネスコ活動とSDGs

2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)では、国際社会が一丸となって取り組むべき目標が明示されました。その前文では「平和なくして持続可能な開発は達成できず、また、持続可能な開発なくして平和は実現できない」と謳っています。問題を根本から解決し平和を築くには、貧困の連鎖を断ち切るための取り組みが必要不可欠です。未来を切り拓く力は基本的人権である「教育」によって育まれるという考えのもと、私たちはSDGsが提唱される以前より、平和な世界の実現に向けて草の根の活動に取り組んでいます。



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



貧困や飢餓、教育、ジェンダー、保険、環境、防災、エネルギー、経済、気候変動など世界の課題に対して、2030年までに達成すべき17の目標と169のターゲットが掲げられています。それぞれの目標の達成には、先進国、途上国がともに協力しながら、各国政府だけでなく、企業やNGOなどの民間組織や市民社会、そして世界中の人たちが一体となって取り組む必要があります。

SDGs重点ゴール4「教育」



質の高い教育をみんなに

すべての人びとに包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

ゴール4の達成に向けて、以下の取り組みを行っています。

返済不要の奨学金により
進学を支援

東日本大震災 子ども支援

減災・防災拠点となる学校での
減災教育をサポート

アクサ ユネスコ協会
減災教育プログラム

学校との連携を通して
SDGs教育を充実させる

SDGs達成に向けた次世代教育



自然や文化を守り伝え、
持続可能な地域社会に貢献
未来遺産運動



専門的な技術者の養成、
地域の子どもの文化学習を推進
世界遺産活動



私たちの活動はコーアクション(Co-Actionともに行動する)です。

私たちの活動は、支援する側、される側ではなく、ともに世の中をよくするパートナーとして取り組むことを基本姿勢としています。例えば世界寺子屋運動では、寺子屋の自立運営を目指し、資金繰りの改善や各地域の実情に合わせた活動内容へと進化させています。また、寺子屋スタッフを日本に招いての報告会などを通じて、世界の現状について「ともに学ぶ」ことにも重きを置いています。パートナーシップでコーアクションは、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」にもつながります。目標を達成しよう





2019年度 私たちが取り組んだこと

皆さまの温かいご支援を、日本国内および世界

自然災害発生後の教育支援と減災教育

- ユネスコ協会就学支援奨学金…P07

608人の子どもたちに奨学金を支給。
(新規に128人の奨学生を採用)

- MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金…P11

457人の子どもたちに奨学金を支給。

- アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム…P13

全国**35**校 **8111**人の児童生徒が助成活動に参加。
助成活動に携わった教員・保護者・地域住民
などは**1万440**人。



SDGs達成に向けた次世代教育

- ユネスコスクールSDGsアシストプロジェクト…P15

全国**115**校 **2万1736**人の児童生徒が助成活動に参加。

- ユネスコ協会ESDパスポート…P16

約**3万3000**人の子どもたちが参加。

- 寺子屋リーフレット制作プロジェクト…P16

全国**13**校 約**1300**人の児童生徒がプロジェクトに参加。



界各国の人びとに届けることができました。

2019年度の活動の一部を数字でご紹介します。

世界遺産活動・未来遺産運動

- 世界遺産活動…P21

カンボジア・バイヨン寺院
シンハ・ナーガ彫像修復プロジェクトは
第4フェーズを実施。

現地の子ども**131**人がアンコール遺跡群を
訪問し世界遺産について学ぶ。

- 未来遺産運動…P17

3プロジェクトが新たに「プロジェクト未来遺産」に登録。



世界寺子屋運動

- カンボジア…P26

1513人が寺子屋で学ぶ。
新たに**1軒**の寺子屋を建設。



- アフガニスタン…P27

837人が
寺子屋で学ぶ。



- ネパール…P28

3185人が
寺子屋で学ぶ。
新たに**1軒**の寺子屋を建設。



- ミャンマー…P29

664人が寺子屋で学ぶ。

子どもたちの高校進学を支える

詳しくは
こちら▶

岩手県大槌町 奨学生

学びの支援で
未来を切り拓く力を

東日本大震災発生後、現地とのやり取りの中で、親御さんがご健在であっても生計を立てる手段を失い、中学から高校へと進学できなくなる子どもたちがいることを知りました。そこで、中長期的な教育支援を実施すべく全国から寄付を募り、標記奨学生を立ち上げ、2011年11月より給付を開始しました。

本奨学生の対象者は、東日本大震災の津波による家屋の流失、損壊や、原発事故による避難などの理由で経済状況が悪化したご家庭の、高校進学を希望する中学3年生で、奨学生一人あたり月額2万円を中学3年から高校2年までの3年間ご家庭に直接給付しています。この事業は岩手県、宮城県、福島県の被害が大きかった市町村を特定して実施しています。

2019年度事業成果

支援地域

岩手県／大槌町、陸前高田市
宮城県／石巻市、気仙沼市、東松島市

受給人数

608名

岩手県陸前高田市、宮城県石巻市、気仙沼市で
新規奨学生128名を採用

奨学生給付額

1億4568万円

(累計22億8633万円)

2011年度からの累計受給人数

3413名

(岩手・宮城・福島の3県 計25市町村)



奨学生のいま

2019年5月から6月にかけて、東北各地の奨学生を訪ねました。将来の夢や学校生活について生き生きと語る奨学生たちのようすをお伝えします。
(奨学生の名前は仮名です)

● 岩手県陸前高田市 高校2年生(取材当時)

新たな一歩に挑戦

山口美佳さんは小学2年から中学2年まで特別支援学級で学びました。中学2年のとき、担任の先生に「皆でサポートするから、普通高校を受験してみないか」と勧められ、中学3年から普通学級に編入しました。「1年間の受験勉強は必死だったので、ほとんど毎日学校に残ってがんばりました。わからないときは、友だちにも教えてもらいました」と振り返る美佳さん。努力の甲斐あって、第一志望の県立高校に見事、合格。先生や仲間たち、そして温かい家族に支えられた結果です。進学後、地域のボランティアや部活にも挑戦し、1年の途中からはソフトテニス部の部長を務めています。「私は人と接するのが苦手だったので、ボランティアや部活などで人と触れ合うことで、うまくできるようになりました」と語る美佳さん。将来、地域の人とのコミュニケーションが欠かせない食品の販売の仕事に就き、地元の食文化を守りたいと考えています。



● 宮城県気仙沼市 高校1年生(取材当時)

大好きな気仙沼

川本夏実さんが生まれ育ったのは太平洋に突き出た半島の地区。豊かな自然の中でのびのび育ちました。「家から50mのところに海があって、いちばんのお気に入りの場所」と教えてくれました。住んでいた家は津波で流失してしまい、5年間仮設住宅で暮らしました。進学した高校では産業経済科を選択。気仙沼の特産品であるサンマの缶詰を製造する実習があり、イラストが得意な夏実さんはそのパッケージデザインをしてみたいと思ったからだそうです。「震災の後、町はいろいろ新しくなつて、小さい頃過ごした町の面影がなくなったのが寂しい。高校生になったので、これからは復興にも関わっていきたいです」と夏実さん。最近は念願だった猫を飼い始め、将来は動物関係の仕事をしたい!とお手紙を寄せてきました。これから資格取得を目指しています。



● 岩手県大槌町 高校1年生(取材当時)

整備士の夢に向かって

安田哲也さんは震災当時、小学校1年生でした。「3月11日は日直で、さよならをいった瞬間にゴーッとなって、全校生徒で校庭の真ん中に集合して、地面が割れたりして怖かったのを覚えています。でも先生が落ち着かせてくれて、裏の城山に皆で急いで登って、上から町を見ていきました。泣いている人もいました」と話してくれました。あれから9年。哲也さんはいま、機械科のある高校に通っています。「僕の夢は、電車や飛行機の整備士になること。小さいころから車などの乗りものが好きで、その構造に興味があります。整備士に必要な機械加工技能士の資格が取れると知り、機械科に入りました。数学や溶接実習が楽しいです」と哲也さん。勉強と部活動のサッカーを両立しながら、自分の目標に向かって元気に高校生活を送っています。

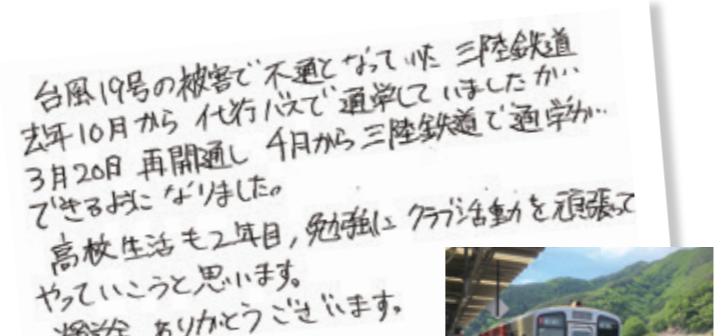


復興が進む被災地

大槌町

三陸鉄道リアス線の再開

震災により不通となっていた三陸鉄道が、全線で開通したのが2019年の春。その後、台風19号の影響で再び不通となった区間も復旧し、2020年3月から運転が再開されました。



大槌町の奨学生が
お便りで知らせてくれました。



運転再開した三陸鉄道リアス線

気仙沼市

気仙沼大島大橋の開通

2019年4月、気仙沼市の大島と本土を結ぶ気仙沼大島大橋が開通しました。東日本大震災の前から計画が進んでいましたが、震災時、島が孤立状態になったことから復興事業として整備されました。大島に住む人びとの日常生活の利便性向上や、観光交流、産業の活性化などが期待されています。



気仙沼市の奨学生から届いた気仙沼大島大橋の写真

子どもたちからのメッセージ

事務局には奨学生や保護者からたくさんのお便りが届きます。

どのお便りにも充実した高校生活を送るようすや、支援者の皆さまへの感謝の気持ちが綴られています。ほんの一部ですが紹介します。



私は、地元の高校に進学し、部活動は硬式野球部に入部しました。支援して頂いた基金を活用し勉強では大学に進学出来るよう学び、部活動では甲子園を目指に頑張っていきます。募金してください方、本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。



東北にはめずらしい
桜が満開の4月8日に、
入学式をすることが、
できました。
入学式当日から部活動に
参加します。
約1週間学校にも余裕に
慣れ、友達も増えました。
これからも苦労、努力頑張ります!



3年間ありがとうございました。奨学金をいただいたことで、勉強にも部活動にも全力で取り組むことが出来ました。将来は保育士として地元、陸前高田で働きたいと考えています。震災から街はどんどん復興が進み、3.11のこと知らない子供たちが増えていました。私はその子たちに、あの日何があったのか、もしまた地震がきたらどうすべきかなど、被災した自分ができることをしていきたいです。今まで本当にありがとうございました。



事業担当者より

2011年から2013年に支援した元奨学生とお会いしました。彼女は、演劇の道に進みたいという中学生のころからの夢を叶えていました。「奨学金が夢をあきらめない力になった」と語ってくれる姿に胸が熱くなりました。これからも奨学生一人ひとりの高校生活や夢を応援していきたいです。

東日本大震災 子ども支援

MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

継続的な支援で安心して学ぶ環境を

学びをあきらめることなく
夢を描ける未来へ

東日本大震災発生後、被災地の教育復興にいち早く取り組もうと、震災前から環境教育事業で協働していた三菱UFJフィナンシャル・グループと話し合いを重ねました。その結果、2011年4月末、小学生から高校生までの児童生徒を対象とした継続的かつ、心豊かな成長に役立つことを目的とした「MUFG・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を創設することで合意しました。その中心が、親を亡くした児童生徒を対象とした給付奨学生金プログラムです。開始時に一時金として10万円を給付し、小学校から高校までの在学期間に月額2万円（年間24万円）を給付します。給付開始の2011年から2019年度まで1486名の奨学生に奨学生金の給付を行いました。最終奨学生が高校を卒業する2025年度まで継続します。

2019年度事業成果

支援地域

岩手県、宮城県、福島県

受給人数

457名

奨学生給付額

1億968万円

（累計20億7784万円）

2011年度からの累計受給人数

1486名詳しくは
こちら▶

SDGs主な対応目標



去年の7月から塾に入り、目指す高校へ入学するため勉強を始めました。初めは遅れを取っていましたが12月頃には追い付き、志望校に合格することが出来ました。これからも頑張っていこうと思います。

宮城県中学3年生・男子

子どもたちからの
ありがとう

私の6年生の一番の思い出は新しい友達に会えたことです。いっしょに笑っていっしょに考えて楽しい日々を過ごしてきました。中学校はちがってはなれてしまうけど手紙のやりとりをしようと思っています。

宮城県小学6年生・女子

しんさいの時は3歳でした。早いもので今年小学校を卒業します。僕は少年野球に入っています。中学校に入つからも野球と勉強をがんばります。

宮城県小学6年生・男子

将来イラストレーターになりたいと思っています。幼い頃から絵を描くことが大好きなのですが、自分の描いたイラストでたくさんの人を笑顔にし勇気を与えるようになりました。高校では美術部に入部し、夢に向かって突き進んでいきたいと思います。

宮城県中学3年生・女子



心豊かな成長プログラム

第8回TOMODACHI・MUFG国際交流プログラムを実施。2019年6月から7月の約2週間、米国の高校生20名が来日し、東京、福島、広島などを訪問しました。東京では外務省・復興庁を訪問し、福島では震災当時の南相馬市長と対話をしたほか、地元高校生との交流を通じ、復興への取り組みや日本の防災対策を学びました。広島では平和記念公園や原爆ドームなどを見学しました。

震災から9年、子どもたちは私たちの想像を超える困難を乗り越えながら、将来を見据え前に進んでいます。地域の復興が着々と進む中、頑張っている子どもたちに思いを馳せる、ということを復興支援につながると思っています。

事業担当者より



卒業証書授

震災の教訓を全国の学校に伝える

詳しくは
こちら▶

3年生の代表が運営側、その他の3年生と1・2年生が避難者側として避難所運営訓練を行う(熊本県・南阿蘇中学校)

災害を生き抜く力を育む

自然災害はいつどこで発生するかわかりません。東日本大震災から9年が経過した今日、その教訓を活かし、今後起こり得る災害に備える取り組みが求められています。

「アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム」は、災害時の避難所にもなる、地域の重要な拠点=学校の防災・減災教育を強化し、将来的の防災・減災リーダー育成を目的に、2014年度から実施しています。本プログラムは、NGO・NPO、企業、大学、行政、学校などの多様なセクターが連携しているのも特徴のひとつです。

主催:日本ユネスコ協会連盟/協力:アクサ生命保険株式会社/プログラムコーディネーター・講師:及川幸彦先生(東京大学)/ファシリテーター・講師:上田和孝先生(新潟大学)/研修協力:認定特定非営利活動法人SEEDS Asia、気仙沼市教育委員会、気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立階上中学校、宮城県多賀城高等学校/後援:文部科学省

2019年度事業成果

助成校	35校
助成活動に参加した児童・生徒	8111人
助成活動に携わった教員・保護者・地域住民等	1万440人
2014年度からの累計参加人数	5万8650人



持続可能な社会の創り手を育成する

活動助成

本事業では、「活動助成」、「教員研修会」、「活動報告会・フォーラム」の3つのプログラムを通じて、小学校・中学校・高校の防災・減災教育を支援しています。防災・減災教育を本格的に始めるきっかけになるよう、2019年度は全国の応募の中から選抜した19都府県・35校に対し、1校につき10万円の活動助成を行いました。

教員研修会in気仙沼

2019年9月16日(月祝)~18日(水)の教員研修会では、企業、専門家、NPO、被災地・気仙沼市の教育現場等の協力のもと、全国の助成校の先生方が2泊3日で気仙沼市で研修を行いました。被災状況や教育復興の教訓を学ぶとともに、ESDやSDGsを踏まえた防災・減災教育の基礎理論、カリキュラムマネジメント、東北唯一の災害科学科を有する宮城県の高校の実践事例などの講義を実施。また市内の学校では、小学生による防災復興マップづくりや、中学生が小学生に伝える防災授業を視察しました。参加した先生たちと中学生との対話・意見交換も行われました。さらに、住民の方々や外部団体と連携して防災・減災教育を行う重要性を学び、先生同士が地域を超えて課題を話し合うワークショップも好評でした。

活動報告会・減災教育フォーラム

2020年2月21日(金)、活動報告会が行われました。熊本県の南阿蘇村立南阿蘇中学校では、東日本大震災の教訓と熊本地震の経験を重ね伝えることで、災害に強い村をつくりたいと、教師主体の防災・減災教育を生徒中心で実施するよう改善しました。気仙沼市の中学生がつくった「避難所運営マニュアル」を参考に同校の避難所運営マニュアルを改訂。熊本地震で避難所生活を経験した生徒たちが自ら運営のアイデアを出し合い、避難所運営訓練を行ったとの報告がありました(左ページ写真)。

さらに、南海トラフ地震の被害想定エリアにある三重県鳥羽市の学校・教育委員会から、2015年度に本事業に参加した後、市内全体に防災・減災教育を広げ持続発展させた先進事例も報告されました。翌22日(土)に開催した公開の減災教育フォーラムには、全国から88名もの教職員等が参加。パネルディスカッションやワークショップのほか、ミンマーの事例や新しい学習指導要領での防災・減災教育の位置づけについて学びました。

助成校の先生からのメッセージ

防災・減災教育は「未来を考える教育」とわかりました。

被災地の姿を学び、180度価値観が変わりました。

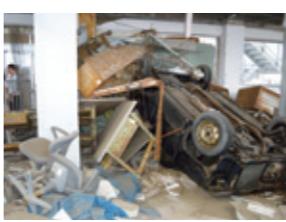
子どもたちが主体的に動くようになり、地域との連携も強まり、学校全体にとっても大きな変化がうまれました。

2020年度に向けて

新しい生活様式のもと、気仙沼市の学校や講師の方々と全国の助成校をオンラインで結ぶ教員研修会を実施する予定です。



震災遺構で津波被害を視察



気仙沼向洋高校(旧校舎)3階の教室

事業担当者より

社会が困難を抱え、厳しい状況にあるいまだからこそ、本事業を通して、子どもたちが災害を乗り越え、生き抜く力を育む新しい防災・減災教育を推進していきたいと思います。



SDGs達成に向けた次世代育成

未来の担い手がここから生まれる

学校でのSDGs達成に向けた活動を応援

ユネスコスクール SDGsアシストプロジェクト

[協力:株式会社三菱UFJ銀行 後援:日本ユネスコ国内委員会]

ユネスコスクールを対象に、SDGs達成に向けたESD(持続可能な開発のための教育)の実践に対し助成を行っています。これまでの11年間で全国のべ973校の活動を支援しました。2019年度は、1校あたり10万円を上限とした従来の助成枠に加え、新たに2年間の継続的なプログラムを対象に上限30万円の枠を設けました。65校に助成し、2020年度に活用されます。助成金は教材等の購入資金や、行事・プログラムの運営費などにあてられ、活動は環境学習や国際理解、世界遺産・地域遺産学習、平和・人権、減災教育など多岐にわたっています。

※プロジェクト詳細や助成校の事例などは専用HPをご覧ください。

活動事例

プロジェクト名:「らうす昆布図鑑」づくり

羅臼町立羅臼小学校(北海道)

対象:全学年146人(5学年22人が主体)

町の特産である「羅臼昆布」を探求課題とし、昆布の生態や自然環境、製品化、流通などに目を向けながら、包括的にふるさと羅臼を捉える学習を展開しました。

助成金の使途

フィールドワーク交通費、講師料、図鑑制作関連費用、水質検査キット、たもみ等



2019年度
事業成果

活動校
115校

参加した児童生徒
2万1736名

事業開始年
2009年度

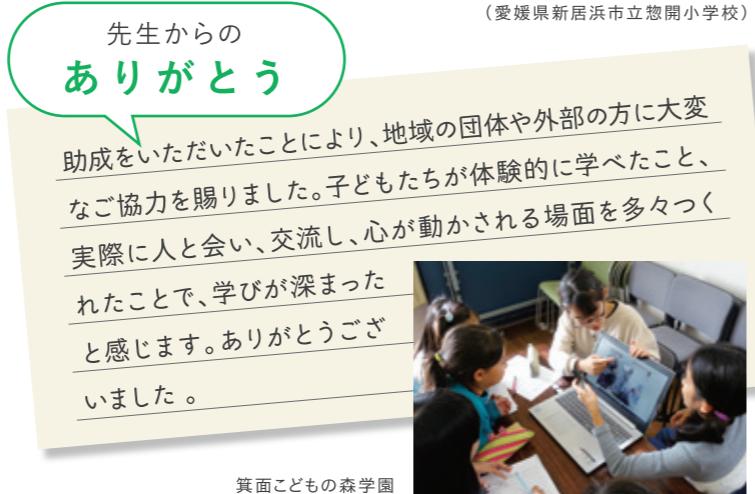
累計助成校
のべ973校



詳しくは
こちら▶



助成金を活用し、渡り蝶アサギマダラについて学習
(愛媛県新居浜市立惣開小学校)



先生からの
ありがとう

助成をいただいたことにより、地域の団体や外部の方に大変なご協力を賜りました。子どもたちが体験的に学べたこと、実際に人と会い、交流し、心が動かされる場面を多々つくれたことで、学びが深まったと感じます。ありがとうございます。

箕面こどもの森学園

プロジェクト名:ひのきの森プロジェクト

ひがしらがた
多摩市立東寺方小学校(東京都)

対象:6学年69人

学校林「ひのきの森」をテーマに、SDGs実現に向けて、再生可能エネルギーを活用したイルミネーションや森のマップづくりなど、具体的な取り組みを考え実行しました。

助成金の使途

謝金、消耗品(発電用モーター、風力・水力発電装置、LEDテープライト、ソーラーケーブル・パネル、鉛蓄電池など)



グローバルな視野で活動する次世代を育成

高校生カンボジアスタディツアー

[共催:公益財団法人かめのり財団]

2014年より毎年10名の高校生をカンボジアへ派遣しています。2019年度は、UNESCO事務所や日本国大使館、内戦の記憶を伝える施設を訪問するとともに、国際協力の現場である寺子屋や世界遺産・無形文化遺産を視察し、青少年による国際協力・国際理解を推進しました。



世界遺産アンコールワットを背にして

世界の識字問題や教育の重要性を学び行動を起こすきっかけに

寺子屋リーフレット制作プロジェクト

世界寺子屋運動を題材に、ESDの一環であり、かつアクティビティ・ラーニングの普及をはかる国際理解教育プログラムです。世界の教育課題を学んだ子どもたちが、デジタル機器を用いて、書きそんじハガキ回収を呼びかけるリーフレットをつくりました。2019年度は全国13校、約1300人の児童生徒が参加しました。



2019年度最優秀賞「日本ユネスコ協会連盟賞」受賞作品

地域の子どもたちのボランティア活動を応援

ユネスコ協会ESDパスポート

全国各地のユネスコ協会を通じて、ESDパスポートを受け取った児童・生徒が地域社会に貢献するボランティア活動に参加しています。2020年度からは「ユネスコ協会SDGsパスポート」としてリニューアルし、引き続き子どもたちのボランティア活動を応援していきます。



大阪府ユネスコ連絡協議会は、ボランティア活動を通じて小中高生が学んだことを発表しあうワークショップを行っています

科学の目で「いのちと健康」を学ぶ

サイエンス・スクール

[協力:MSD株式会社]

日本における科学教育の一助になることを目的に、ESDの一環として全国で出前授業を実施してきました。授業では、科学者のルール「観察・仮説・証明」という普遍的の

口セスが「いのちと健康」の分野でいかに実社会に役立っているか学んでもらいました。



出前授業は2011年から実施している

次世代育成について
詳しくは
こちら▶



子どもたちのSDGs認知は、確実に進んでいると実感しています。次世代を担う若者たちが、社会課題を自分ごととして捉え行動していくために、今後もさまざまな事業を実施してまいります。

地域の「たからもの」を 100年後の子どもたちに

詳しくは
こちら▶



創作組踊「糸蒲の縁(いとかまのえん)」(沖縄県・南上原組踊保存会)

日本の自然と伝統文化を 未来へ伝える

未来遺産運動は、日本の各地で育まれてきた「身近なたからもの」を未来へ継承していくために、2009年に始まりました。少子高齢化、過疎化といった地域が抱える課題や生活スタイルの変化などにより、町並みや祭り、民俗芸能、景観、生物の生息地などの保護・保全、継承が困難な地域遺産を守り伝える市民活動を「プロジェクト未来遺産」として登録し、応援していくことを目指しています。

この11年間で73の市民活動を登録。日本ユネスコ協会連盟では、多くの企業やユネスコ協会・クラブ等と連携しながら、「プロジェクト未来遺産」の市民活動を応援しています。

*「プロジェクト未来遺産」は、当連盟ホームページや読売新聞で公募。書類審査・現地調査を経て、専門家や企業人で構成される未来遺産委員会(委員長:西村幸夫神戸芸術工科大学教授/2019年12月時点)で審議のうえ決定。

2019年度事業成果

新たに登録された
「プロジェクト未来遺産」

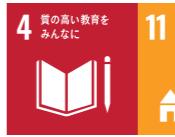
3プロジェクト(累計73)

チームエナセーブ未来プロジェクト

8ヵ所で実施

開始年:2013年、活動実施累計数:54回
*雨天中止を除く

SDGs主な対応目標



「プロジェクト未来遺産」2019

秋田の聖農・石川理紀之助の教えの継承と 「草木谷」の環境保全活動

団体名:NPO法人草木谷を守る会 所在地:秋田県潟上市

秋田県を中心に農業を通じて貧しい村の救済に生涯を捧げ、「聖農」と称される石川理紀之助のゆかりの地「草木谷」を中心とした環境保全活動。下流に位置する八郎湖の水質浄化を視野に、学校教育や地域と連携した循環型農業「田んぼの楽校」や、地元の農業・漁業者等とともに、地元の魅力を再発見する「リキノスケ未来塾」を通じて、郷土愛を醸成し、将来の担い手育成を図る取り組みが進められています。



「田んぼの楽校」では皆どろんこに

美濃流し仁輪加～地方に華咲く言葉の文化～

団体名:美濃市仁輪加連盟 所在地:岐阜県美濃市

仁輪加は、上方の落語等に大きな影響を与えた芸能史上重要な即興的な寸劇。「美濃流し仁輪加」(記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財)の伝承が危ぶまれたことをきっかけに、コンクールという新しい形式を加え、飛躍的に伝承意欲を活性化させ、技術的な向上も視野に入れた取り組みが進められています。同時に、「小学校版仁輪加」の指導、披露の場を創出し、仁輪加の演じ手として親しむ機会を提供することで、確実な継承を目指しています。



地域で受け継がれてきた仁輪加

創作組踊「糸蒲の縁(いとかまのえん)」で 地域の子ども達を育み新たな文化を繋ぐ

団体名:南上原組踊保存会 所在地:沖縄県中頭郡中城村

新しい行政区である南上原地区には伝統芸能がなかったことから、地元に伝わる物語を題材にして創作された「糸蒲の縁」。沖縄の代表的な伝統芸能「組踊」で、子どもたちが中心となって上演する本活動は、優れた若手の指導者らによって、高い芸術性が表現され、多くの公演が行われています。伝統芸能にもとづき、地域文化を創造する取り組みは、新旧住民や世代間の連帯を促進し、新しいコミュニティ形成が進められています。



子どもたちが演じる美しい「組踊」

未来遺産委員会委員長総評

今年は最終的に3プロジェクトが選ばれました。どのプロジェクトも、次世代へ継承するための創意工夫が見られ、高いモデル性があると実感しました。例えば、伝統を生かしながら、地域の歴史を反映した芸能の創作、新しいスタイルを取り入れた伝統芸能の継承や、環境保全だけでなく、地域の活性化も視野に入れた環境教育など、地域の文化や自然の保護を通じて、地域の発展という視点を取り入れた「プロジェクト未来遺産」が選ばれたと思います。

未来遺産委員会委員長 西村幸夫(神戸芸術工科大学教授)



「プロジェクト未来遺産」一覧

2009年から11年。37都道府県で73の
「プロジェクト未来遺産」が登録されました。

中部西

- いきもの不思議の国・中池見湿地（福井県敦賀市）
- 赤瓦と煙出しの里 加賀ひがしたにの未来プロジェクト（石川県加賀市）
- 現代の癒し「布橋灌頂会（ぬのばしかんじょうえ）」を永遠に語り継ぐために！（富山県中新川郡立山町）
- 伝統行事を支えていく未来の担い手育成事業（三重県名張市）
- 越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブ（福井県越前市）
- みんなの手で守り、未来に伝える！日本の原風景『丸山千枚田』（三重県熊野市）
- 愛知万博の理念と成果の継承～海上（かいしょ）の森・保全活用プロジェクト～（愛知県瀬戸市）
- 福野夜高祭～「災厄からの復興の心」を引き継ぐプロジェクト～（富山県南砺市）
- 美濃流し仁輪加～地方に華咲く言葉の文化～（岐阜県美濃市）

近畿

- 葵プロジェクト（京都府京都市）
- ならまちわらべうたフェスタ（奈良県奈良市）
- 孟子不動谷生物多様性活性化プロジェクト（和歌山県海南市）
- 天神崎（てんじんざき）の自然の維持と環境教育の推進（和歌山県田辺市）
- ニッポンバラタナゴを守る伝統的な溜池浄化法“ドビ流し”の継承（大阪府八尾市）
- いやしの里深野を目指して。希少になったササユリ保護・増殖活動（奈良県宇陀市）
- 銀の馬車道プロジェクト～日本初の高速産業道路を未来につなぐ～（兵庫県姫路市）
- 湖国の原風景権座（ごんざ）水郷を守り育てる活動（日本の里百選）選定地域（滋賀県近江八幡市）
- 京都桂川の生物多様性保全～カヤネズミのすむ茅原を未来へつなぐ（京都府京都市）

中国

- 日本の記憶が息づく島 OKIを守り伝えるプロジェクト（島根県隠岐郡隠岐の島町）
- このままの鞆（とも）がいい！
住民の手による歴史的港湾都市「鞆の浦」の歴史・文化・自然の継承と再生（広島県福山市）
- 未来につなごう！尾道・坂の町再生プロジェクト（広島県尾道市）
- 笑い講とお笑い講で世界中に笑いを広める運動（山口県防府市）
- 英田（あいだ）上山棚田再生プロジェクト～未来へつなぐ棚田8300枚～（岡山県美作市）
- まちにあかりを灯すプロジェクト（岡山県倉敷市）
- 椹野川（ふしおがわ）もり・かわ・うみを再生し人と人をつなぐプロジェクト（山口県山口市）
- 萩のおたからにみんなで親しみ、みんなに広めるプロジェクト（山口県萩市）
- 被爆樹木が世界に伝える未来へのメッセージ「平和・希望・共生」（広島県広島市）
- 山口鶯流狂言伝承者育成プロジェクト～子ども達に残す鶯流狂言～（山口県山口市）

九州・沖縄

- 八女（やめ）福島 空き町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承（福岡県八女市）
- 現代版組踊「肝高の阿麻和利」と「キムタカのマチづくり」（沖縄県うるま市）
- 阿蘇千年の草原を未来へ引き継ごう（熊本県阿蘇市）
- 未来に遺す「生きた鉄道博物館」～100年レール肥薩線への情熱～（熊本県人吉市）
- 千年の時を刻む莊園村落遺跡「田染荘（たしふのしょう）小崎」（大分県豊後高田市）
- 生きもの元気、子どもも元気、漁師さんも元気な中津干潟保全活動（大分県中津市）
- 鬼と炎が舞う長岩屋修正鬼会（ながいわやしゅじょうおにえ）（大分県豊後高田市）
- 博多湾・和白（わじろ）干潟の自然保護活動（福岡県福岡市）
- 肥前浜宿の歴史的まちなみの保存と醸造文化の継承（佐賀県鹿島市）
- 子供と命をつなぐジッキョヌホーのトウギョの里プロジェクト（鹿児島県大島郡知名町）
- 「くも合戦」保存プロジェクト（鹿児島県姶良市）
- 創作組踊「糸蒲の縁（いとかのえん）」で地域の子ども達を育み新たな文化を繋ぐ（沖縄県中頭郡中城村）



四国

- みんなでかぶこう!! プロジェクト～農村歌舞伎紙園座（香川県高松市）
- 世界に伝えたい!! 阿波人形浄瑠璃の魅力未来遺産プロジェクト（徳島県徳島市）
- 次世代につなごう!! 「千年サンゴ」保全プロジェクト（徳島県海部郡牟岐町）
- 美の里を未来へ 石畳地区・村並み保存活動（愛媛県喜多郡内子町）
- 未来へつなぐ子ども達の健康と健やかな成長を～田井の子供神相撲～（香川県高松市）

事業担当者より

「プロジェクト未来遺産」は、文化財や民俗芸能、自然環境などを守るだけでなく、いまの時代に合わせた継承方法や新しい視点を提示してくれています。企業等と連携し、応援の輪を広げていきます。

北海道

- 野生サケのふるさと ウヨロ川保全調査・普及プロジェクト（北海道白老郡白老町）
- ★未来人（みらいびと）への贈り物★
宗谷防人物語（そうやさきもりものがたり）（北海道稚内市）
- 知床のヒグマなど、人間と野生動物とが共生していく大切さを全国に届けよう。（北海道斜里郡斜里町）
- 絶滅危惧種イトウ（サケ科）北海道尻別川個体群の復元活動（北海道虻田郡ニセコ町）
- 昭和新山ジオツアー 減災文化継承プログラム（北海道有珠郡壮瞥町）

東北

- 久保川イーハトーブ世界自然再生事業（岩手県一関市）
- 稻生川（いなおいがわ）開削と三本木原（さんぽんぎはら）開拓の志を活かし、共創郷土の伝統を未来に（青森県十和田市）
- 月浜のえんずのわりを未来につなげよう（宮城県東松島市）
- 新津丘陵の自然・森林・歴史遺産の保全・整備プロジェクト（新潟県新潟市）
- 町屋再生プロジェクト 市民基金設立による町屋の外観再生事業（新潟県村上市）
- おらほのながめづくり～『遠野物語』の文化的景観を守る～（岩手県遠野市）
- 氣仙沼港と風待ちの風景～歴史的建造物の復興プロジェクト～（宮城県氣仙沼市）
- 古町花街における伝統文化と歴史的景観の保全・継承活動（新潟県新潟市）
- 秋田の聖農・石川理紀之助の教えの継承と「草木谷」の環境保全活動（秋田県潟上市）

関東

- 神楽坂をますます粹に～「粹益（いきまし）」プロジェクト（東京都新宿区）
- 水と林と田んぼのハーモニー 里山がくれた生き物と歴史の玉手箱 宍塚の自然と文化を次世代に（茨城県つくば市）
- 谷中のたから 体験・発見・交流プロジェクト 江戸～東京のまちと自然、建物、生活文化の保全活用・体験事業～（東京都台東区）
- 渡良瀬川源流の森再生プロジェクト～足尾銅山の荒廃地に植樹～（栃木県日光市）
- 水戸の歴史資産「偕楽園と弘道館」の魅力を子どもたちに伝える活動（茨城県水戸市）
- 佐野天明（命）鋳物のすぐれた伝統文化を未来につなぐ活動（栃木県佐野市）
- 世界で一つだけの「元荒川ムサシトミヨ生息地」保護活動（埼玉県熊谷市）
- 首都圏の大規模緑地・見沼たんぼを100年後の子ども達に残す（埼玉県さいたま市）
- 雑司が谷がやがやプロジェクト～歴史と文化のまちづくり（東京都豊島区）
- 玉川上水・分水網の保全活用プロジェクト（東京都立川市）

公式ホームページ：
<https://tyre.dunlop.co.jp/enasave/mirai/>



世界遺産活動

世界遺産の保護と保全、人材育成



アンコール・トム「バイヨン寺院」の遺跡修復現場 ©NFUAJ/JST,JASA

祖先から受け継いだ技術と思いを 未来を担う子どもたちへ

世界の多様な文化や自然を理解することは、平和な社会への第一歩です。そして、祖先から引き継がれた大切な文化や自然を次世代へ届けることは、いまを生きる私たちの使命です。この考えのもと、これまでアフガニスタン、カンボジア、ネパール、フィリピン、ベトナムなどの国々で、危機的な状況におかれた世界遺産の保護・保全活動と、そのための人材育成、普及啓発活動を行ってきました。2019年度は、カンボジア・アンコール遺跡群における修復支援および技術者養成と、現地の子どもたちを対象とした世界遺産学習プログラムを継続して行いました。

2019年度事業成果

バイヨン寺院シンハ・ナーガ
彫像修復プロジェクト

第4フェーズ実施

アンコール塗り絵プロジェクト

第3弾教材完成(5000部)
授業・遺跡訪問学習131名

詳しくは
こちら▶



アンコール塗り絵教材プロジェクト



遺跡訪問学習で、教材に載っていたレリーフを発見!

遺跡を訪れ、本物から学ぶ

世界遺産アンコール遺跡群のあるカンボジア・シェムリアップ州で、子ども（小学生相当）を対象に、自国の歴史と文化に親しみ、理解する機会を提供することを目的に、2009年から子ども向け世界遺産教育に取り組んでいます。内戦時代に教員の大多数が命を落としたことによる人材不足、住民が遺跡の価値を知らないために石材を建築材として使用したり売買したりする問題、また、シェムリアップが国を代表する観光地として発展する一方で、郊外に暮らす、とくに貧困層の人びとは遺跡を訪問する機会が少ない、などの課題があつたためです。

プロジェクトの内容は、アンコール遺跡群のレリーフや無形文化遺産をモチーフとした「塗り絵教材」の制作、教員向け指導書の開発と教員研修、そして授業の実施です。これまでに2つの教材が制作され、第1弾は「アンコール遺跡群の石像・レリーフ（4つの寺院から計16点のモチーフ）」、第2弾は「カンボジアの無形文化遺産（伝統舞踊アプサラダンスなど）」で、州内の学校、教育関係者にも配布されてきました。さらに2019年、第3弾となる「カンボジアの伝統的な暮らし」編が完成しました。

事業担当者より

子どもたちだけでなく、学校でこのような教育を受ける機会がなかった先生たちからも、学校や寺子屋だけでは得られない学習体験であるとして、たいへん好評です。

カンボジアの 歴史と伝統を未来へ

遺跡にはこれまで来ることができず、見るのが夢だったのでうれしかったです。歴史や神話についての先生の解説は、全部面白かったです。もっとたくさん遺跡を見て、もっと勉強したいと思いました。

現地からの
ありがとう

タヤック寺子屋・
復学支援クラス1年生
ファイ・チョヴィーさん

塗り絵学習は、寺子屋で学ぶ子どもたち117人と教員14人を対象に実施しました。専門家による研修を受けた先生たちが授業を行い、子どもたちは寺院の歴史や石像・レリーフの意味を学び、塗り絵作業後、塗った色を選んだ理由などを発表します。その上で遺跡訪問学習に出かけ、専門家の解説に耳を傾け、教材にある石像などを探すワークショップで理解を深めました。



新教材では伝統的住居などが塗り絵の題材になっている

2020年度に向けて

第3弾として完成した新しい教材も活用し、引き続き寺子屋で学ぶ子どもたちを主な対象としてプロジェクトを実施します。教材開発には、アプサラ機構（注）などカンボジアの教育関係者・専門家の全面的な協力を得て内容の充実がはかられています。

注)APSARA – Authority for the Protection of the Site and Management of the Region of Angkor

バイヨン寺院シンハ像・ナーガ像修復プロジェクト

クメール民族の誇りを 次世代へ

8年間の活動で未経験者が熟練作業員に

世界遺産アンコール遺跡群のひとつである、バイヨン寺院外回廊(第一回廊)と、その欄干を飾るシンハ(獅子)・ナーガ(蛇)の彫像修復、修復技術者の育成を並行して2012年から行ってきました。このプロジェクトは、日本国政府アンコール遺跡救済チーム(JASA)の技術協力を得て、アンコール人材養成支援機構(JST)の共同事業として実施しています。およそ2ヵ年ずつの段階(フェーズ)に区切って進め、8年超にわたる規模となりましたが、2018年度から続く第



多くのオリジナル部材や遺物が見つかった
発掘作業 ©NFUAJ/JST,JASA



ナーガ(蛇)彫像に、崩落した無数の部材から候補となるものを合わせる
©NFUAJ/JST,JASA

なった現場は、崩落によって部材が散らばっているだけでなく、数世紀にわたる風雨で崩落した部材の上に土砂がたまり、大きな土壘となっていた箇所もありました。そこで、土壘の発掘にも着手した結果、大量のオリジナルの石材が発見されました。その多くが元の位置に戻り、遺跡全体の景観は大幅に改善されました。加えて、カンボジアや中国の陶磁器、フランス植民地時代の修復で使用されたノミなどの鉄部材、また、おそらく内戦時代のものと見られる銃弾の薬きょうなど、歴史を語る貴重な遺物も出土し、丁寧に保管されました。

このプロジェクトにより育成された作業員9名は、アンコール遺跡群の保全対象地域で、寺子屋のある村などの出身の未経験の人たちです。8年間で、育成に関わったパートナー・JST専門家も目を見張る成長を遂げ、遺跡修復現場を支える人材に成長しました。

2020年度に向けて

バイヨン寺院におけるプロジェクトは終了し、今後は、育成された現地の作業員たちがカンボジアの遺跡修復の場で活躍することが期待されます。引き続き、UNESCO等と協力して支援ニアの高い世界遺産の保全や人材育成などに貢献していきます。

現地からの ありがとう

多くの技術が必要なこの仕事を、とても楽しんでできました。仲間たちも、いまでは石材修理、新材加工、機材運転などさまざまな分野のエキスパートです。より技術を磨き、次世代へと引き継ぎたいです。

技能員

コン・ラックスメイさん(リエンダイ村)

事業担当者より

2019年度までご寄付いただいた企業・団体・個人のお名前を刻んだ銘板は、
バイヨン寺院敷地内にあるバイヨン・ハット脇に設置されています。シンハ像のレプリカが目印です。

世界遺産と日本ユネスコ協会連盟

人類共通の至宝を 未来に引き継ぐ

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、過去から現在へと引き継がれてきたかけがえのない宝物であり、今日を生きる人びとの手で未来へと伝えられるべきものです。

世界遺産は1972年の第17回UNESCO総会で採択された「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」で定義され、「顕著な普遍的価値(Outstanding Universal Value)」を有するものとして「世界遺産リスト」に登録された物件を指します。記念物や建造物群、遺跡などからなる「文化遺産」、地形や地質、絶滅危惧種や固有種の生息地・自生地などからなる「自然遺産」、文化遺産と自然遺産両方の要素を満たす「複合遺産」の3種類で



広島の原爆ドーム



アンコールワット

構成されます。2020年6月現在、合計1121件(文化遺産869件、自然遺産213件、複合遺産39件)が登録されています。リストの中で、とくに危機的状況に瀕している世界遺産は「危機にさらされている世界遺産リスト」に登録され、53件あります。日本ユネスコ協会連盟の世界遺産活動は、民間の立場から貢献しています。

首里城復興ユネスコ募金

1日も早い復興を願って

2019年10月31日に発生した火災により、沖縄の歴史と文化の象徴である首里城が焼失したことは、沖縄県の方々のみならず、日本国民にとって、例えようのない衝撃であり、大きな悲しみをもたらしました。

首里城は、「首里城跡」として、世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺跡群」の構成資産の一つとして登録されており、日本ユネスコ協会連盟では、世界遺産活動として、首里城の復興を支援するため「首里城復興ユネスコ募金」を開設し、募金活動を行いました。2019年度に皆さまからお寄せいただいたご寄付は、



今後、全額を首里城の復興に携わる沖縄県や現地団体等に寄贈する予定です。

(寄付受付期間:

2019年11月1日～2020年10月31日予定)

詳しくはこちら▶



すべての人に教育を



ネパール・ルンビニのマシナ寺子屋。幼稚園クラスでは歌やネパール語、英単語を学ぶ

学校に行けない1億2100万人の子どもたち、
7億7300万人の非識字者のために

1990年前後、世界の貧困問題の解決には教育が重要な役割を果たすとの認識が高まり、UNESCOをはじめとする国際機関等がタイのジョムティエンに集まり、「万人のための教育世界会議」を開催、世界全体で推進する将来に向けた行動計画を立てました。

これに先立つ1986年に世界的スター、故マイケル・ジャクソン氏が来日した際、オークションの売り上げなどを当連盟へ寄託されました。これを原資として、1989年、「2000年までにすべての人に教育を」のスローガンのもと、文字の読み書きのできない成人や学校に行けない子どもへのプログラム「世界寺子屋運動」を開始しました。

2019年は運動開始から30年目にあたり、9月に開催された「民間ユネスコ運動全国大会in東京」で、活動を振り返る機会を持ちました(p30参照)。

詳しくは
こちら▶

カンボジア

子どもは将来の夢へ向かい、
大人は地域発展の担い手に

夜間の寺子屋で大人も子どもとともに学ぶ

SDGsの目標のひとつ「2030年までに最低9年間(小・中学校)の義務教育の完全普及」達成に近づくため、中途退学した10~16歳の子どもたちに2年間の復学支援クラス(小学校課程)を、卒業生には中学校進学支援を行っています。9月に来日したアン・サムナンさん(p30参照)もその1人で、現在は高校生となりました。2019年度は、シェムリアップ州内17軒の寺子屋で1300人以上に対し、識字などの基礎教育や職業訓練などを行いました。

寺子屋の自立も進んでいます。チョンクニア寺子屋は、運営費捻出のため、東南アジア最大の湖・トンレサップ湖を訪れる観光客向けに小さなレストランを開店しました。このレストランは、経営・調理・接客などの学びの場、交流の場にもなっています。さらに、世界寺子屋運動30周年を記念して歌手の倉木麻衣さんとタイアップしたホティアオイ製品づくり、カンボジア国内外の教育関係者の視察受け入れにも対応しています。

3月、18軒目となるポペル寺子屋が完成しました。住民の収入が少ないとことから、学齢期の子どもの17%が学校に通えていない地域です。今後も寺子屋の貢献が期待されます。

小学校課程の卒業証書を手に
目を輝かせる子どもたち寺子屋の紹介映像
カンボジア編は
こちら▶現地からの
ありがとう

識字クラスで読み書き計算ができるようになり、服の仕立てを習うことができました。いまは自宅で仕立屋を開き、その収入で子どもを学校に通わせることができます。ご支援いただいた皆さんには感謝でいっぱいです。

シェムリアップ州
コックスロック寺子屋
チョック・プロムさん(35歳)

2019年度事業成果

識字クラス 幼稚園クラス

20クラス 501人 10クラス 235人

復学支援クラス 進学支援

10クラス 183人 9校 136人

収益向上プログラム 教員・運営研修

278家庭 180人

寺子屋設立

1軒が完成

2020年度に向けて

経済発展に伴い、識字や就学率は改善傾向にあるカンボジアですが、未だその恩恵が受けられない人びとが取り残されている現状があります。一人でも多くの大人や子どもたちに学びと成長の機会を届けられるよう、教育・収入向上・人材育成の各プログラムを継続します。

現地職員より

年度末に新型コロナウイルスの影響がありましたが、皆さまのおかげで2019年度の活動を成功裏に終えることができ、心から感謝いたします。2020年度も、さらなる成功が認められるよう、ともに行動しましょう!



アフガニスタン

女性の識字率と地位向上のために

国内避難民キャンプへの教育支援と17軒目の寺子屋

2019年度は、カブールとバーミヤンを中心に20クラス515人が参加し、UNESCOが作成した新しい教科書を使い、ダリ語や算数、『コーラン』を学びました。健康、学び、家庭や家族、共存など内容は多岐にわたります。保守的な地域では、男女が同じ教室で勉強することを嫌う家庭もありますが、寺子屋では、父親や夫の理解を得るために、識字教員は全員女性です。また裁縫クラスでは、12クラス306人が3ヵ月から6ヵ月かけて洋服やバッグづくりなどを学びました。



バグラミ寺子屋はアフガン初の2階建て



アフガニスタン女性の識字率は世界でも最低レベルだが、寺子屋では熱心に学ぶ姿が見られる

では、継続して識字クラスと職業訓練クラスを実施しました。避難民は内戦地域から逃れてきており、教育を受けられた人はわずかなため、寺子屋が唯一無二の重要な役割を担います。カブール県中部のバグラミ県には、17軒目の寺子屋が完成しつつあります。アフガニスタンでは初の2階建ての建物です。寺子屋は政府の識字関連部局の事務所としても活用されることになっています。

同年代の子どもたちが学校に行っているのを見て悲しくなり、泣いたこともあります。両親はとても保守的で、男の子と同じ学校に行くことを許してくれませんでした。でも寺子屋の女性のための識字クラスについて父に話したら、通うことを認めてくれました。難民キャンプでクラスを開催してくれて感謝しています。

学習者からのありがとう

（バリカブ国内避難民キャンプ）メヒラさん（15歳）

一杯のスプーン

カブールのサハ医療センターで低体重の子どもへの栄養補助食品の配布をはじめ、診察に必要な薬の支援などを行っています。2019年度は、約12万人以上が医療センターを利用しました。

2020年度に向けて

バグラミ寺子屋が完成したら、開所式典を開き、識字クラスや職業訓練、寺子屋運営委員への研修を行います。また、クラスを実施する際には、生徒間の距離の確保や消毒など感染予防措置を講じながら活動を継続していきます。新型コロナウイルスの拡大を受け、医療センターへの医療備品の提供やロックダウン（外出禁止）で困窮した世帯への食糧支援を行っていきます。

2019年度事業成果	識字クラス 20クラス 515人
	技術訓練 12クラス 306人
	教員研修 16人
	寺子屋設立 1軒が建設中

現地職員より

寺子屋のクラスには通わせてくれます。治安や新型コロナウイルスなど厳しい状況ですが、安全に気をつけて事業を続けていきます。

ネパール

最高齢は92歳！“学びたい”を叶える寺子屋

新しい寺子屋が完成。開所式典も盛大に

2019年度は、ネパール南部のルンビニで150クラス2999人を対象に4ヵ月の中級識字クラスを実施しました。寺子屋や民家を活用した授業では、学習者が基礎的なネパール語や生活スキル、算数を学習しました。また、携帯電話の使い方や栄養価の高い料理の作り方なども習得できます。ほかにも、スマーズに小学校へ移行できるよう幼稚園クラスを実施、子どもたちは集団生活や基礎的なネパール語の単語などを学びました。



完成したばかりのギタナガール寺子屋

10月には、ネパールで20軒目となるギタナガール寺子屋が、世界自然遺産「チトワン国立公園」を擁するネパール中南部チトワン郡に完成。日本からの支援者を含め、150人が参加して盛大な開所式典が行われました。この寺子屋では、女性の小口貯蓄・融資グループの活動や、電気工事の研修などが行われています。



92歳のロク・マヤ・タルーさんも学ぶ喜びを体験

2019年度は、ルンビニで現地の国際仏教協会のクリニックと協働して、栄養状態のよらない子ども3990人（約1万5千人）に栄養補助食品の配布を継続実施しました。

一杯のスプーン

2019年度は、ルンビニで現地の国際仏教協会のクリニックと協働して、栄養状態のよらない子ども3990人（約1万5千人）に栄養補助食品の配布を継続実施しました。

2019年度事業成果

識字クラス	150クラス 2999人
幼稚園クラス	2クラス 41人
成人初等教育	1クラス 17人
教員研修	128人
寺子屋設立	1軒が完成

2020年度に向けて

2020年は、2002年から支援してきた寺子屋が自立する予定です。新しい地域で、学校に行けない子どもへのクラスや幼稚園クラス、女子教育などを通じて、教育から最も遠い女子や低カーストの人びとの教育支援を行う予定です。

現地パートナーより

ネパール事業で設立した寺子屋は、立派な建物があり活発な活動が行われています。日本の皆さまのご支援によって、ネパール国内に寺子屋の「モデル」を示せていると思います。

寺子屋の紹介映像
ネパール編は
こちら▶



三菱アジア子ども絵日記フェスタ

“絵日記”を通して 子どもたちの相互理解を育む

24の国と地域から6万6473作品が集まる

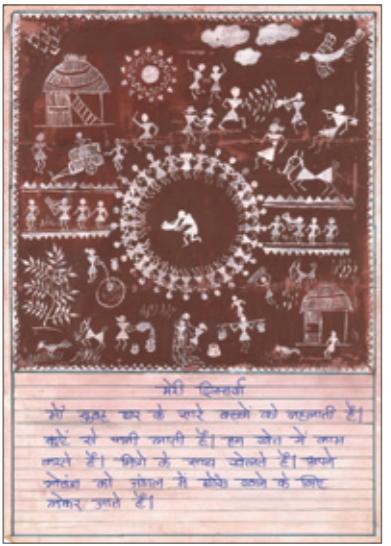
三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)との共催で1990年からスタート。2年をかけて募集から選考、交流を行う事業で、今回は14回目の実施でした。アジアの小学生を対象とした絵日記コンテストを通じ青少年の国際相互理解を促進します。2019年度は、アジア24の国・地域の子どもたち(6歳から12歳)から絵日記作品を公募し、6万6473作品が集まりました(日本からは5620作品)。国際選考会を経て、

詳しくは
こちら▶

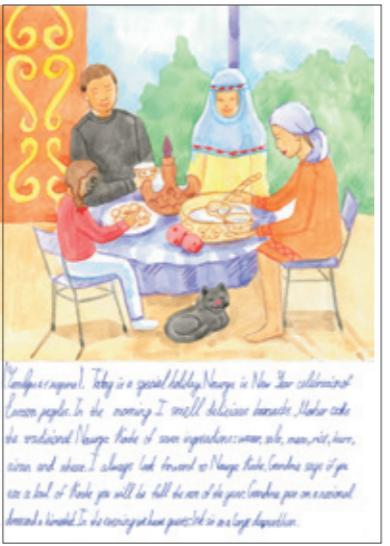


各国・地域のグランプリ作品が決定しました。世界の識字教育への貢献を趣旨として開始した本事業は、第12回からESD(持続可能な開発のための教育)を事業趣旨に加え、より国際理解教育に重点を置いた活動に発展。「絵日記」を描くこと、見ることを通して、次代を担う子どもたちが互いの文化を知り、尊重し合う心を育むために、アジア各国の教育省などと連携して取り組んでいます。

各国・地域のグランプリ作品の一部をご紹介します



インド/
ニメシュ・ランタン・パルさん(12歳)の作品
少数先住民「ワリル」の彼は、井戸からの水汲み、畑仕事の手伝い、友だちとの遊びや牛の放牧など、日常的な村の風景を伝統的な手法で描いています。



カザフスタン/
カビドラ・アイナル・カナトクズイさん(11歳)の作品
「ナウルーズ(春分の日の新年のお祝い)」のようす。この日は民族衣装を身にまとい、特別な料理を食べ、夕方には宴会も開かれました。



モンゴル/
ヴィリストゥクルドゥル・トドビリゲンさん(8歳)の作品
毎年7月に行われるモンゴル伝統の祭り「ナーダム」では、モンゴル相撲や弓の競技、競馬が行われます。競馬では5歳から7歳の子どもが馬に乗り、速さを競います。

現地パートナーから
ありがとう

モンゴルは1993年から絵日記事業に参加していますが、回を重ねるごとに、応募してくれる子どもたちが増えています。絵日記によってアジアの国々の多様な文化や地域の伝統、人びとの生活などへの理解を深めることができます。

モンゴル 自然文化保護財団
サインバヤール・ウルトナサンさん

国内外で展示会を開催

今後は、横浜市でグランプリ作品の原画展を開催するとともに、海外でもグランプリ作品の展示会を行い、多くの人びとにアジアの子どもたちの生活を知ってもらうことを計画しています。



維持会員／贊助団体会員

(2020年6月現在 五十音順 敬称略)

● 維持会員(140)

株式会社IHI/あいおいニッセイ同和損害保険株式会社/アイネオン株式会社/旭化成株式会社/朝日生命保険相互会社/朝日不動産管理株式会社/朝日ライフ アセットマネジメント株式会社/株式会社ADEKA/株式会社アドバンテスト/ANAホールディングス株式会社/株式会社アルファ/株式会社ECC/株式会社インフォテクノ朝日/株式会社ウィザス/株式会社エスジー/NPO法人エスピーシーネットワーク/エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社/エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社/株式会社エヌ・ティ・ティ・データ/エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社/株式会社NTTドコモ/NTTファイナンス株式会社/株式会社NTTファシリティーズ/株式会社オーシーエス/株式会社大塚商会 城西営業部 渋谷支店/株式会社岡三証券グループ/沖縄ツーリスト株式会社/株式会社オリエントコーポレーション/特定非営利活動法人 音楽は平和を運ぶ/株式会社オーワードホールディングス/花王株式会社/株式会社カスタムライフ/関東電化工業株式会社/株式会社かんぽ生命保険/北日本ビル管理株式会社/株式会社紀伊國屋書店/キヤノン株式会社/共同印刷株式会社/株式会社協和エクシオ/協和キリン株式会社/株式会社クオリアート/株式会社クラウン・クリエイティブ/株式会社クラウン・パッケージ/株式会社クレスコ/株式会社クレディセゾン/黒田精工株式会社/京王電鉄株式会社/株式会社講談社/株式会社幸美グラフィス/国際セーフティー株式会社/サービス・ツーリズム産業労働組合連合会/三幸株式会社/株式会社シーアー/JTグループ労働組合連合会/ジェットスター・ジャパン株式会社/株式会社四国銀行/株式会社資生堂/株式会社ショウエイ/学校法人尚志学園/株式会社白橋/新光電気工業株式会社/株式会社新生銀行/西武信用金庫/清和綜合建物株式会社/株式会社セーフティ/株式会社セブン&アイ・ホールディングス/全国税理士共栄会/税理士法人添石総合会計事務所/株式会社タイキ/大和証券株式会社/株式会社千代田組/中部日本放送株式会社/DIC株式会社/株式会社デリースポート案内広告社/株式会社テレビ朝日ホールディングス/株式会社電通/株式会社電通テック/東急建設株式会社/東京海上日動火災保険株式会社/東京書籍株式会社/株式会社東京ドーム/株式会社東京放送ホールディングス/東武鉄道株式会社/東洋埠頭株式会社/株式会社東横イン/トップパン・フォームズ株式会社/西日本電信電話株式会社/株式会社日税ビジネスサービス/ニチモウ株式会社/日通商事株式会社/日本軽金属株式会社/日本化薬株式会社/日本空港ビルディング株式会社/日本ゼオン株式会社/日本通運株式会社/日本電信電話株式会社/日本土地建物株式会社/日本農薬株式会社/日本ピストリング株式会社/日本放送協会/日本メディカルシステム株式会社/野村ホールディングス株式会社/株式会社パウコミュニケーションズ/パナソニック株式会社/株式会社PFU/東日本電信電話株式会社/東日本旅客鉄道株式会社/光写真印刷株式会社/株式会社日立製作所/株式会社ビデオプロモーション/株式会社フェドラ/富士オフィス＆ライフサービス株式会社/富士急行株式会社/富士通株式会社/株式会社富士通エフス/株式会社富士通ゼネラル/株式会社フジテレビジョン/古河機械金属株式会社/古河電気工業株式会社/株式会社ブロードリンク/株式会社プロジェクトパーク/マイスター会計事務所/三井住友カード株式会社/ミツワ株式会社/三菱地所株式会社/三菱重工業株式会社/三菱商事株式会社/株式会社ミライト/株式会社ミヨク情報サービス/株式会社ムクダ/メッドサポートシステムズ株式会社/モリリン株式会社/株式会社ヤクルト本社/山崎製パン株式会社/横浜ゴム株式会社/レイ法律事務所/株式会社レインボージャパン/匿名3社

● 賛助団体会員(18)

COM日本委員会/OME日本委員会/特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会/国際美術連盟日本委員会/一般社団法人国立大学協会/特定非営利活動法人しまNPO推進協議会/一般財団法人日本エスペラント協会/公益社団法人日本空手協会/協同組合日本脚本家連盟/一般社団法人日本国際児童図書評議会/NPO法人 日本国際文化遺産協会/公益社団法人日本造園学会/公益社団法人日本図書館協会/一般社団法人日本の節句文化を継承する会/一般社団法人日本の伝統を守る会/公益社団法人日本バリュー・エンジニアリング協会/公益財団法人野村生涯教育センター/三重大学ユネスコスクール委員会

会員加入のお願い

- 維持会員 この法人の目的、事業に賛同し、ユネスコ活動に貢献し得る企業・団体。
会費は年額一口12万円。
- 賛助団体会員 この法人の目的、事業に賛同し、ユネスコ活動に寄与する教育、科学、文化その他の団体。
会費は年額2万円。
- 個人会員 ユネスコ活動にとくに貢献し得る個人。
会費は年額一口1万2000円。
- 構成団体会員 ユネスコ憲章の精神に則り、民間ユネスコ活動を推進するために設立されたユネスコ協会・ユネスコクラブ、都道府県ユネスコ連絡協議会及び全国的青年連絡組織。会費は構成団体下の加入会員ごとに年額1000円。

世界に広がる民間ユネスコ運動のネットワーク(AFUCAとWFUCA)

アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟(AFUCA)は1974年に日本が主導的な役割を果たして創設されました。メンバーは、アジア14ヵ国です。「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」(左ページ)を共催するなど、アジア地域での民間ユネスコ運動の中心的な役割を担っています。創設以来、当連盟が事務局を務めています。また、1981年に設立された世界ユネスコ協会クラブ・センター連盟(WFUCA)には80ヵ国以上が加盟し、世界で3800のユネスコ協会・クラブが活動しています。



民間ユネスコ運動の多彩な取り組み

地域に根ざした活動から グローバルな課題解決へ

2019年に30周年を迎えた世界寺子屋運動は、これまで多くのユネスコ協会・クラブによる現地へのスタディツアーや、日本各地の学校での出前授業、書きそんじハガキの回収、募金活動など、多彩な活動により支えられてきました。2019年度は、招聘した支援先の学習者や職員による、市民に開かれた「寺子屋キャラバン」が開催され、この運動の意義や理解を深める大きな役割を果しました。

地域の課題に応じた地道な活動のほか、全国的な展開として、平和を願う「平和の鐘を鳴らそう」、地域の文化や自然を守り伝える気持ちを育む「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」絵画展があり、2019年度も多くのユネスコ協会・クラブが取り組みました。

2020年度は、新型コロナウイルスにより活動のあり方にも変革が求められるなか、民間ユネスコ運動として何ができるのかを考え、全国のユネスコ協会・クラブとともに行動してまいります。



「絵で伝えよう!わたしの町のたからもの」絵画展
(写真提供/久留米ユネスコ協会)

ユネスコ協会とSDGs

全国のユネスコ協会・クラブは、長年にわたり地域の課題に向き合い、その解決に資する多種多様な活動を続けてきました。国連が2015年に掲げたSDGs(持続可能な開発目標)は、改めてこれまでの活動を、SDGsの視点から捉えなおす大きな機会となりました。また、ESD(持続可能な開発のための教育)に力を入れてきた多くの協会・クラブでは、SDGsの目標4を重点ゴールとして捉え、活動を展開しています。



学ぶことの意味や大切さについてともに考えた

日本ユネスコ運動全国大会

全国の会員が1年に1回集い、日頃のユネスコ活動の情報交換や大会テーマを中心に研鑽を重ねています。2019年度は「学びを通して地域を振り返る」というテーマのもと、東京の豊島区立目白小学校で学ぶことの重要性と向き合いました。アジアの寺子屋のかつての学習者や映画監督の山田洋次氏にもご登壇いただき、学びを深める機会となりました。(P30参照)

詳しくは
こちら▶



全国に広がっている「平和の鐘を鳴らそう」
(写真提供/秋田ユネスコ協会)

全国各地で幅広い活動を展開しています

ブロック別ユネスコ活動研究会

全国9ブロックで地域のユネスコ協会・クラブが集い、相互研修・研鑽を目的に研究会を実施しています。それぞれの研究会では、地域において平和で持続可能な社会づくりを目指して活動している会員同士が、今後の活動展開について議論・意見交換を行っています。また、2019年度は世界寺子屋運動30周年を記念して、寺子屋運動を実施するカンボジアやアフガニスタンの現地職員が来日し、活動報告を行ったブロックもありました。



四国プロ研:郷土芸能せつとう節



東北プロ研:子ども語り部がお話を披露



北海道プロ研:高校生がSDGsの活動について報告

地域発の特色ある活動



伊丹ユネスコ協会(兵庫県):国際理解講座

2019年度の講師は、インドネシアから技能実習生として来日したファミさん。熱心に身に付けた日本語で、自国の民族や宗教、教育などについてご紹介いただきました。



新宿ユネスコ協会(東京都):
SDGsアクションフォーラム



全国的青年連絡組織:
ユネスコ青年全国大会
2020in岐阜

ユネスコ活動に携わる全国の青年が一同に会し、学びと交流を深めました。さまざまな発表やグループディスカッションが行われ、各地のユネスコ活動にも有意義な会となりました。



徳山ユネスコ協会(山口県):
国際理解講座

1956年に開設した「ユネスコ英会話教室」。岩国基地関係のアメリカ人を講師に迎え、英会話を通じて異文化交流を実践しています。



富山ユネスコ協会(富山県):
相倉合掌造り集落茅場の下草刈り

世界遺産保全のため2005年から毎年7月に実施。2019年も猛暑の中、40アールの茅場で、フジなどのツル植物を刈り取りました。合掌造りの伝統建築を守る取り組みの苦労や大切さを実感。



豊橋ユネスコ協会(愛知県):
東三河ESD・ユネスコスクールフォーラム
地区内のユネスコスクールの連携協力を進めるべく、参加校による実践報告や参加者同士の交流会を行いました。

構成団体会員(全国ユネスコ協会・クラブ等)

(2020年6月現在 276協会)

北海道ブロック(20)
北海道ユネスコ連絡協議会
旭川ユネスコ協会
石狩ユネスコ協会
岩内ユネスコ協会
江差ユネスコ協会
恵庭ユネスコ協会
江別ユネスコ協会
小樽ユネスコ協会
帶広ユネスコ協会
北広島ユネスコ協会
釧路ユネスコ協会
俱知安ユネスコ協会
札幌ユネスコ協会
知床ユネスコ協会
千歳ユネスコ協会
苫小牧ユネスコ協会
名寄ユネスコ協会
函館ユネスコ協会
室蘭ユネスコ協会
稚内ユネスコ協会
東北ブロック(46)
一般社団法人青森県ユネスコ協会
秋田県ユネスコ連絡協議会
秋田ユネスコ協会
横手ユネスコ協会
岩手県ユネスコ協会連盟
一関ユネスコ協会
一戸ユネスコ協会
江刺ユネスコ協会
大船渡ユネスコ協会
釜石ユネスコ協会
川崎ユネスコ協会
北上ユネスコ協会
久慈ユネスコ協会
衣川ユネスコ協会
浄法寺ユネスコ協会
千厩ユネスコ協会
滝沢ユネスコ協会
遠野ユネスコ協会
二戸市ユネスコ協会
花巻ユネスコ協会
東山ユネスコ協会
平泉ユネスコ協会
前沢ユネスコ協会
水沢ユネスコ協会
宮古ユネスコ協会
盛岡ユネスコ協会
陸前高田ユネスコ協会
宮城県ユネスコ連絡協議会
気仙沼ユネスコ協会
塩釜ユネスコ協会
白石ユネスコ協会
公益社団法人仙台ユネスコ協会
富谷ユネスコ協会
山形県ユネスコ連絡協議会
酒田ユネスコ協会
鶴岡ユネスコ協会
福島県ユネスコ連絡協議会
会津ユネスコ協会

いわきユネスコ協会
郡山ユネスコ協会
郡山次世代ユネスコ協会
白河ユネスコ協会
須賀川地方ユネスコ協会
福島ユネスコ協会
佐渡ユネスコ協会
一般社団法人新潟市ユネスコ協会
関東ブロック(72)
栃木県ユネスコ連絡協議会
足利ユネスコ協会
開闢ユネスコ協会
佐野ユネスコ協会
日光ユネスコ協会
群馬県ユネスコ連絡協議会
安中碓氷ユネスコ協会
伊勢崎ユネスコ協会
大泉ユネスコ協会
太田ユネスコ協会
桐生ユネスコ協会
ICUユネスコクラブ
全国的青年連絡組織
中部東ブロック(23)
富岡ユネスコ協会
中之条ユネスコ協会
沼田ユネスコ協会
藤岡地方ユネスコ協会
前橋ユネスコ協会
埼玉県ユネスコ連絡協議会
越谷ユネスコ協会
特定非営利活動法人さいたまユネスコ協会
草加ユネスコ協会
秩父ユネスコ協会
蓮田・白岡地方ユネスコ協会
深谷地方ユネスコ協会
寄居地方ユネスコ協会
茨城県ユネスコ連絡協議会
伊豆ユネスコクラブ
磐田ユネスコ協会
北茨城ユネスコ協会
土浦ユネスコ協会
日立ユネスコ協会
ひたちなかユネスコ協会
水戸ユネスコ協会
千葉県ユネスコ連絡協議会
認定特定非営利法人市川市ユネスコ協会
浦安市ユネスコ協会
柏ユネスコ協会
香取・佐原ユネスコ協会
木更津ユネスコ協会
千葉ユネスコ協会
富里ユネスコ協会
成田ユネスコ協会
船橋ユネスコ協会
八街ユネスコ協会
四街道市ユネスコ協会
東京都ユネスコ連絡協議会
浅草ユネスコ協会
岐阜長良川ユネスコ協会
朝日生命ユネスコクラブ
特定非営利活動法人雅新ユネスコクラブ
大田ユネスコ協会
小平ユネスコ協会
渋谷ユネスコ協会
一般社団法人新宿ユネスコ協会
杉並ユネスコ協会
スプリングユネスコクラブ
スポーツヒーリングユネスコクラブ
玉川大学ユネスコクラブ
立川ユネスコ協会
千代田ユネスコ協会
特定非営利活動法人しまユネスコ協会
ふるさと東京ユネスコ協会
特定非営利活動法人平和の文化東京ユネスコクラブ
舞音の守ユネスコクラブ
京都府ユネスコ連絡協議会
京都ユネスコ協会
学び舎江戸東京ユネスコクラブ
港ユネスコ協会
舞鶴ユネスコ協会
ユネスコ京都クラブ
大阪府ユネスコ連絡協議会
エリーニ・ユネスコ協会
特定非営利活動法人黒ユネスコ協会
堺ユネスコ協会
箕面ユネスコ協会
一般社団法人大阪北河内ユネスコ協会
奈良県ユネスコ連絡協議会
忍野ユネスコ協会
甲府ユネスコ協会
富士川町ユネスコ協会
山梨市ユネスコ協会
長野県ユネスコ連絡協議会
飯田ユネスコ協会
上田ユネスコ協会
特定非営利活動法人木曾ユネスコ協会
草加ユネスコ協会
特定非営利活動法人木曽ユネスコ協会
諏訪ユネスコ協会
長野ユネスコ協会
特定非営利活動法人松本ユネスコ協会
深谷地方ユネスコ協会
寄居地方ユネスコ協会
静岡県ユネスコ連絡協議会
伊豆ユネスコ協会
磐田ユネスコ協会
静岡ユネスコ協会
清水ユネスコ協会
沼津ユネスコ協会
浜松ユネスコ協会
神奈川県ユネスコ連絡協議会
厚木ユネスコ協会
特定非営利活動法人鎌倉ユネスコ協会
横浜ユネスコ協会
中部西ブロック(22)
富山県ユネスコ連絡協議会
富山ユネスコ協会
富山ユネスコ協会青年部
南砺ユネスコ協会
氷見ユネスコ協会
石川県ユネスコ連絡協議会
大垣ユネスコ協会
各務原ユネスコ協会
倉敷ユネスコ協会
津山ユネスコ協会
広島県ユネスコ連絡協議会
高山ユネスコ協会
ユネスコクラブ日本ライン
豊橋ユネスコ協会
名古屋ユネスコ協会
広島ユネスコ協会

企業・団体との連携／サポーターの声

2019年度も多くの企業・団体にご協力いただきました。

日本ユネスコ協会連盟は、UNESCO憲章に基づき、志を同じくする人びとや企業・団体と連携して国内外で活動を続けています。



さまざまなサポーターの方々にも支えていただきました。

民間ユネスコ運動は、趣旨に賛同してくださる多くの方々に支えられています。
さまざまな分野から支援してくださる方々のあたたかいメッセージをご紹介します。



ユネスコ世界寺子屋運動
広報特使
久保 純子さん

世界中が新型コロナウイルスの脅威にさらされています。寺子屋のあるカンボジアなどの4カ国も例外ではありません。医療備品の提供や衛生教育プログラムの実施など、「今」必要な支援を届けている日本ユネスコ協会連盟の活動に、心からの敬意を表します。1日も早く人びとの日常が戻りますように。これからも世界寺子屋運動に寄り添っていきます。



歌手
倉木 麻衣さん
寺子屋で学んだ女性たちが作り上げたカゴバッグとフォトフレームの販売を通じてこの活動を知って頂くと共に、ご支援ご協力を頂き、感謝しています。今は世界中が大変な状況の中ではありますが、カンボジアの皆さんと子どもたちの笑顔が少しでも増えるように、サポートを続けていきたいです!! Stay hope! Stand by you... Love.



ヴァイオリニスト
UNESCo平和芸術家
二村 英仁さん

第40回UNESCO総会の催行事Symphony 2030では演奏と併せ、紛争地や被災地への慰問経験を述べたスピーチが「最も困難な状況下でも、音楽が人々の生活の高揚に貢献できる」と評され、芸術文化の重要性が再確認されました。COVID-19による苦境の中、今後も音楽をUNESCo活動に活かし、皆様と共にこの危機を乗り越えたいと願います。



日本ユネスコ協会連盟 世界遺産活動
特別大使犬(ワンバスター)
わさお
わさおが2020年6月8日に旅立ちました。世界遺産活動の意義を広く啓発していくため、2011年に就任後、被災地訪問をはじめ、白神山地での植樹活動にも毎年参加してもらいました。活動を応援してくださった飼い主の菊谷さんご家族と、わさおに深く感謝するとともに、わさおの冥福を心よりお祈りいたします。

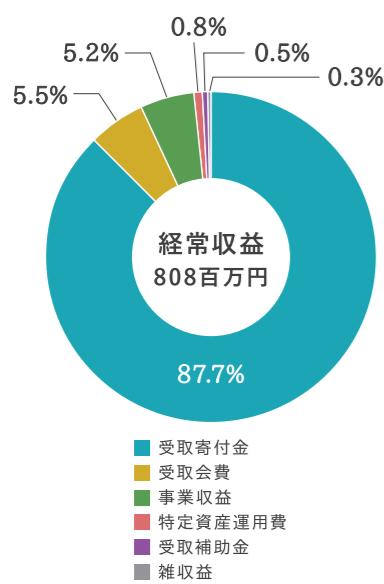
会計報告

2019年度 正味財産増減計算書(要約版) 2019年4月1日から2020年3月31日まで

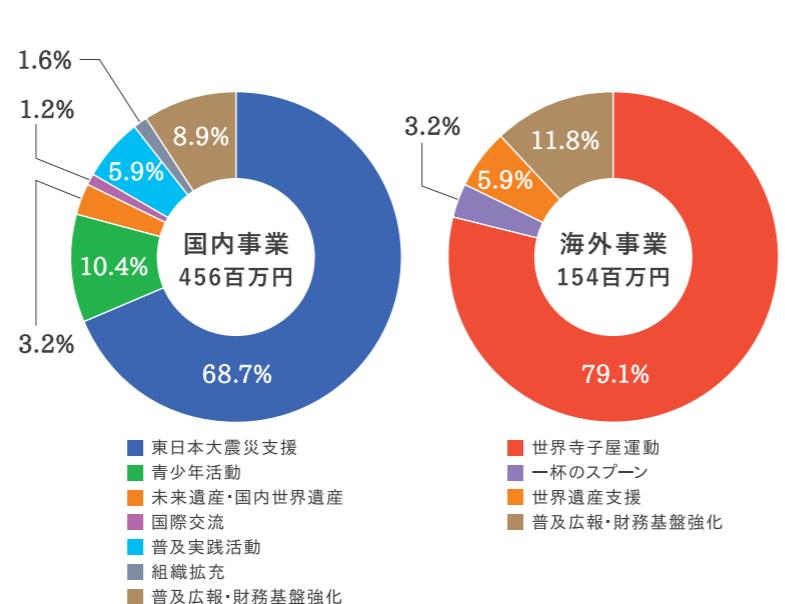
科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
① 経常収益	
基本財産運用益	0
特定資産運用益	6,734
受取会費	44,702
事業収益	41,877
受取補助金等	4,104
受取寄付金	708,343
雑収益	2,373
経常収益計	808,135
② 経常費用	0
事業費	609,983
管理費	31,076
経常費用計	641,059
評価損益等調整前当期経常増減額	167,076
評価損益等計	△503
当期経常増減額	166,572
2. 経常外増減の部	0
① 経常外収益	0
経常外収益計	0
② 経常外費用	0
経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	166,572
一般正味財産期首残高	643,983
一般正味財産期末残高	810,555
II 指定正味財産増減の部	0
受取寄付金	300,467
特定資産評価損	△357
一般正味財産への振替額	△492,479
当期指定正味財産増減額	△192,369
指定正味財産期首残高	1,820,867
指定正味財産期末残高	1,628,497
III 正味財産期末残高	2,439,053

注：記載金額は千円未満の端数を切り捨てて表示しております。

2019年度 経常収益の内訳



2019年度 経常費用のうち事業費の内訳



公式ホームページ

日本ユネスコ協会連盟の最新情報はコチラから

2019年度にリニューアルした公式ホームページでは、当連盟が国内・海外で実施する活動の最新情報をご確認いただけます。

募集事業の告知も行っていますので、お見逃しなく！



ユネスコ協会

検索

web版機関誌ユネスコ

機関誌「ユネスコ」は、1951年10月5日創刊の「ユネスコ通信」を原点にしています。当連盟およびユネスコ協会・クラブの活動のニュースレターとして年3回発行。PDF版とweb版があり、web版ではPDF版を抜粋してパソコンやスマホから読みやすく編集しています。



出力して読みやすい
PDF版もご用意しています



公式Facebookページ

あなたのいいね！やシェアが活動の力に

Facebookでは当連盟が皆さんと共有したい情報を届けています。ページへのいいね！やシェアをクリックいただくことで活動が広まり、私たちの力となります。フォローをよろしくお願いします。



公式YouTubeチャンネル

NFUAJのチャンネル登録をお願いします

日本ユネスコ協会連盟の公式チャンネルNFUAJ (National Federation of UNESCO Association in JAPAN)のチャンネル登録をお願いします。当連盟の活動をダイジェストに紹介する映像や、教材にも使える国際支援のレポート映像などがあります。



メールマガジンにご登録ください

現在募集中の事業や最新の活動などの情報を、月に1回程度発行しています。ご登録がお済みでない方は、この機会にぜひご登録ください。

ご登録はこちらから
または、ホームページのトップページからもご登録いただけます。



私たちの活動はコーワークション(ともに行動する)です

日本ユネスコ協会連盟の活動は、皆さまからのご寄付で実現しています。私たちの活動の基本姿勢はコーワークション(Co-Action ともに行動する)です。ともに社会課題を解決し、「誰一人取り残さない」平和な世界を築くパートナーとして、皆さまのご協力をお願いします。

寄付によるコーワークション

月1いいことプログラム

クレジットカードまたは口座振替により、毎月決まった金額をご寄付いただくプログラムです。金額は寄付者ご自身で設定いただけます。

都度のご寄付

クレジットカード、郵便振替、銀行振込により、ご自身のタイミングでご寄付いただく方法です。ご希望の方には、当連盟専用の郵便振替用紙をお送りいたします。

遺贈

遺言によりご自身の財産を贈与(寄付)する方法です。ご希望の方にご案内パンフレットをお送りいたします。

ご寄付方法は
コラチをご覧ください

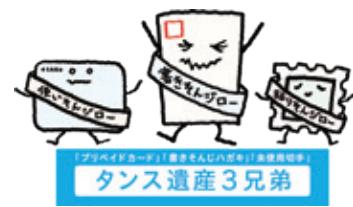


書きそんじハガキなどによるコーワークション

書きそんじたハガキ、未使用の切手、プリペイドカードを当連盟にお送りください。
途上国の教育支援「世界寺子屋運動」の活動資金として活用させていただきます。

送付先

〒151-0013 東京都渋谷区恵比寿1-3-11-12F
日本ユネスコ協会連盟 書きそんじ係



©DENTSU,INC

地域のユネスコ活動でコーワークション

全国276のユネスコ協会・クラブでは、チャリティイベントや絵画コンクールなど地域に根ざした活動を実施しています。
イベント、ボランティア協力など、地域のユネスコ活動にご参加ください。

学校とのコーワークション

日本ユネスコ協会連盟が主催する学校、青少年向け事業や、学校で実施する持続可能な開発目標(SDGs)推進活動のサポートプログラムがあります。ぜひご参加ください。

- ・「減災教育プログラム」による教員研修、助成
- ・「SDGsアシストプロジェクト」による助成
- ・学校での書きそんじハガキ回収や募金活動
- ・途上国の識字教育などの出前授業の実施 など

詳しくは、日本ユネスコ協会連盟 各事業担当までご連絡ください。

TEL 03-5424-1121



企業・団体とのコーワークション

日本ユネスコ協会連盟では、国内外の教育支援活動や次世代育成、SDGsの達成に向けた活動をともに推進する企業、団体パートナーを求めていいます。

維持会員

当連盟の維持会員として、会費により継続的に活動を支援いただく方法です。安定した財政により、長期の取り組みが実現します。

都度のご寄付

売上の一部を社会貢献として、また創業や設立記念の節目に、当連盟にご寄付いただく方法です。特定の活動を指定することもできます。

協働事業の実施

企業・団体と当連盟のネットワークやノウハウを結合して、社会課題を解決する事業を協働で行う方法です。

ポイント寄付や株主優待での寄付コース設定

ポイントプログラムに日本ユネスコ協会連盟への寄付コースを設定いただくなど、業種やサービスに合った方法をお選びいただけます。

詳しくは、日本ユネスコ協会連盟 企画部までご連絡ください。

TEL 03-5424-1121 Mail kikaku@unesco.or.jp

